

第1回 試験問題 解答

問題 1、

問題 2、

問題 3、

問題 4、

問題 5、

問題 6、

問題 7、

問題 8、 宿根草 アジュガ オドリコソウ リシマキア ヒカゲユキノシタ

問題 9、 ガーデンデザインブック p53 参照 ガーデンデザインブック p77 参照

第2回 試験問題 解答

問題 1、

問題 2、

問題 3、

問題 4、

問題 5、

問題 6、ゾーニング計画

問題 7、階段状に連続した滝

色彩設計

観賞用ガラス温室空間

問題 8、

問題 9、 ガーデンデザインブック p77 参照 ガーデンデザインブック p53 参照

第3回 試験問題 解答

問題 1、

問題 2、

問題 3、

問題 4、

問題 5、

問題 6、

問題 7、

問題 8、

問題 9、

問題 10、

問題 11、階段状に連続した滝

色彩設計

観賞用ガラス温室空間

問題 12、

問題 13、 ガーデンデザインブック p53 参照

ガーデンデザインブック p77 参照

第 4 回 試験問題 解答

問題 1、

問題 2、

問題 3、

問題 4、

問題 5、

問題 6、

問題 7、

問題 8、

問題 9、

問題 10、

問題 11、

問題 12、 ガーデンデザインブック p53 参照

ガーデンデザインブック p77 参照

出張用 試験問題 解答

問題 1、

問題 2、

問題 3、

問題 4、

問題 5、

問題 6、

問題 7、

問題 8、

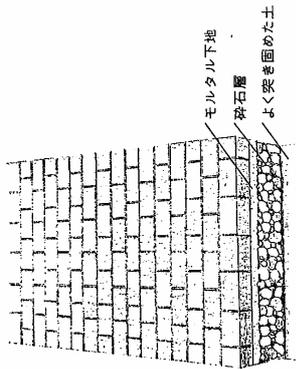
問題 9、

問題 10、 宿根草 アジュガ オドリコソウ リシマキア ヒカゲユキノシタ

問題 11、 ガーデンデザインブック p53 参照

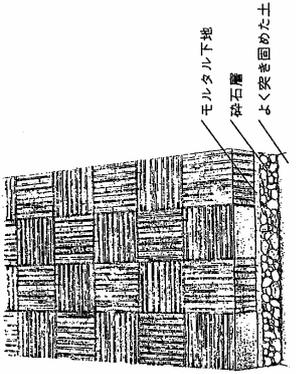
ガーデンデザインブック p77 参照

ストレッチャー・ボンド



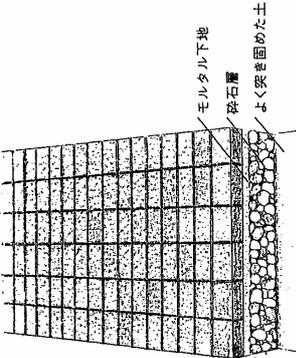
ストレッチャー・ボンドは、長方形のレンガを互い違いに並べる伝統的なレンガのパターンで、強い方向感を感じさせます。この図のように連続した目地を視線に対して横に並べると、その場所が実際より横に広くなったような空気を感ぜさせます。このパターンを90度回して縦に目地を通すと、細く伸びた感じになります。

バスケットウィーブのタイル



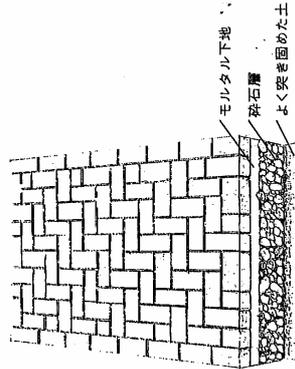
耐凍害性があるさまざまなタイルを小口を隠せるように配置したパターンです。この方法は、曲線も含めて様々な魅力的なパターンを作ることが出来ます。目地は狭くした方が美しいようです。バスケットウィーブパターンは、あまり動きを感じさせないため、椅子を置いて降る場所などに特に適しています。

スタック・ボンドのレンガ



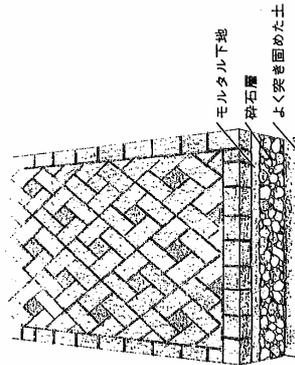
図のように普通に置く場合と、側面を上にして置く場合と2通りありますが、いずれも縦横に目地を通すパターンです。くつきりとしたモダンな外観で、現代的な建築などに適しているでしょう。図のようにレンガの横方向から見ると動きのない感じですが、長手方向から見ると極めて強い方向性を感じさせます。

ハリンボーン配置のレンガ



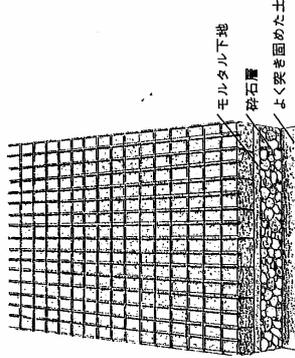
ハリンボーンパターンで置いたレンガの例ですが、43ページに示したものと異なり、レンガを縦と平行にしています。こうすると周辺部に出来る隙間を埋めるための三角形にカットしたレンガ（ファイラー）が必要になります。また、どの方向から見ても動きのある感じを作ることが出来るでしょう。

ダイヤモンド・ダッチ

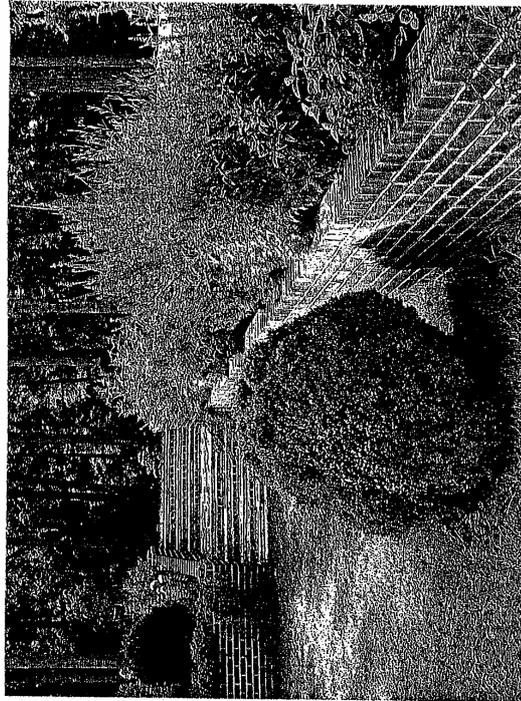


縦横を左右両側の外方向に強く動きを持つ伝統的なブロックパターンです。狭い場所を指数的に広く見せる目的で好んで使われます。両側を平行な線で囲まれた場所や通路に活気を与えてくれます。両側には三角形のファイラーが必要です。

クォーター・ステイブル



上側になる表面に深いV字形の溝を付けた非常に強度のあるレンガです。狭い場所でも活気と動きのある雰囲気を生み出します。目地の数が多いため、足元が安定します。



地を強調したりありえたり出立なくなしり出来ることを示します*。

【訳注】※1サイスのばらつきとガーデンボンズ、レンガの寸法に全く相違がなければ、どの積み方でも同じになる。実際には、長さのばらつきがあるため、1枚幅の隙においてヘックルを見せる方向で置いた部分(ヘックルポイント)については、片側をフラットに仕上げると反対側の面は若干の凹凸が出来ることが多い。これを避けるにはヘックル面の数を少なくする。よい例として、間隔からきれいに見える必要のある1枚幅(15mm)の隙を多用する庭園設計の積み方が多用されることから「ガーデンボンズ」と呼ばれる。

※2水切り層 下から、150-300mmの高さに粘土質水切り層

※3レンガの目地 このレンガの目地はあまり目立たないが、隙には70-75mmの厚みが見られるようにレンガの目地材が部分的にレンガ表面にはみ出していることが多い。イペレンガの扱いが全体に異なることであるが、日本の輸入は、一枚幅が広く追加で丸縁面のため、出来上がりや隙が異なる。片側、片側の目地に穴が空くことが多い。「四角縁のサイス」を出したかたなら、レンガの目地の幅の幅も、目地の仕上げ方も、ある程度ラフにした方がよい。

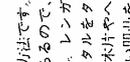
※4ウェンズウエザードの目地のまじりかた 縦目地は、横目地の前面と同じにするのも多い。この場合、向かって左側をへこませ右側をレンガと前、にすするのが普通である。このように名目とした場合、厳密にはうと、縦目地と横目地の交わる部分には1-2mmの厚い溝が作られるが、これについてはあまり厳格にはならなくてよい。縦目地に合わせて横目地に縦目地は約6mmへこませを付けたりすることには「日本的」になってしまふ。

※5リセスト この目地の入れ方はお坊間で普通に見られるが、ここで述べられているように、本来海外で採用するものではない。暖地のレンガ積みなどで使われるむしろ特異な方法である。原因よりほかに雨の多い日本で使われるのは意外。また日本はヨーロッパより湿度が高いので、太陽光線の入射角が高く、目地の影がより強調される傾向にある。その点でもこの目地を海外で採用することは不適切である。

モルタル目地の色々



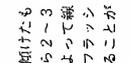
フラッシュ



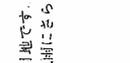
ウェザード



ハンド



キイド



リセスト

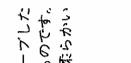
目地を単純に平らに仕上げます。雨水はそのまま下に流れ落ちるので、床下の壁に特に適しています。レンガを箱みながらはみ出したモルタルをタールなどでこすり取り、木片やヘックルなどを使って細かい凹みをつけることもあります。



オーバーポイント



ハンド



リセスト

水が流れやすいように目地を削げたもので、上側はレンガの面から2-3mmへこませますが、これによって線状の影が出来ます。縦目地はフラッシュ仕上げとして水引線を強調することがあります*。

丸縁などで深く押しつけた目地です。魅力的な影を付けますが、風雨にさらされる場所には向きません。

バケツのハンドルのようなカーブした道具を使って、丸く仕上げたものです。雨水に対しては問題がなく、柔らかい影をつけてくれます。

コチを使って目地を平らに深く押しつける方法で、強い影がレンガの列に限って使われます*。

(ト) この新しいレンガを使った背の低い壁では、バケットハンド(バケツの柄)スタイルで少し窪んだ目地を入れています。モダンですっきりとしたラインを見せる壁にマッチするよう、目地は慎重に検討され地上されています。